呼吸器感染症における CS-807の検討

中森祥隆・吉村邦彦・中谷龍王・蝶名林直彦 中田紘一郎・谷本普一 虎の門病院呼吸器科 杉 裕子

虎の門病院細菌検査室

新しい経口用セフェム系抗生物質である CS-807を呼吸器感染症15例に 1 回100又は200mg, 1 日 2 回投与し、その臨床効果および副作用を検討した。疾患の内訳は、下気道感染症14例, 急性肺炎 1 例であった。結果は、著効 1 例, 有効10例, やや有効 2 例, 無効 2 例で有効率73.3%であった。細菌学的効果では、S. aureus 4 例中消失 3 例, 不変 1 例, S. pneumoniae, H. influenzae, B. catarrhalis 各 2 例は、全例除菌された。副作用は、軽度の胃もたれ感を 1 例に認めたが、継続投与可能であり、投与終了後軽快した。血液、尿、生化学検査では異常を認めなかった。従って CS-807は、呼吸器感染症の治療に有用な抗生物質と考える。

CS-807は、新しい経口用セファロスポリン剤であり、 主に、腸壁のエステラーゼにより活性なR-3763に加水 分解される。R-3763はグラム陽性、陰性菌に広範囲な 抗菌スペクトルを有している¹⁾。

今回, CS-807を呼吸器感染症に使用し, その臨床効果および副作用を検討した。

I. 対 象 患 者

対象患者は、昭和60年12月から昭和61年3月までに 当科を受診した32歳から81歳まで(平均年齢61歳)の 男性8名、女性7名の計15名である。疾患の内訳は、 肺炎1例、下気道感染症14例(基礎疾患は、気管支拡 張症8例、びまん性汎細気管支炎2例、気管支喘息3例、 肺気腫症1例)である(Table 1)。

Ⅱ.研究方法

CS-807, 100又は200mgを1日2回経口投与した。投与期間は、7~21日,平均11.9日,総投与量は、1.4~5.6g,平均3.3gであった。本剤投与期間中は、他の抗菌剤,抗生物質の併用は行わなかった。臨床効果判定は、原則として以下の基準によった。

著効(excellent): 1週間以内に完全に解熱し、痰中検出菌の消失かつ1日痰量の2/3以上の減少、痰性状の正常化を認め、薬剤投与終了時に、血沈、CRP、WBC、などの炎症所見のほぼ正常化したもの。

有効 (good):解熱し, 痰中検出菌量の2段階以上の減少, 1日痰量の1/3以上の減少, 痰性状の改善を認め, 薬剤投与終了時に, 血沈, CRP, WBC, などの炎症所見のほぼ正常化したもの。

やや有効 (fair): 有効と無効の間のもの。

無効(poor):薬剤投与を持続しても、1日痰量、痰性状、炎症所見などに改善の認められなかったもの。

肺炎に関しては、胸部X線像の改善をさらに効果判定 に加えた。

副作用に関しては、発熱、発疹、消化器症状、血液像、 血小板数、肝臓、腎臓機能などを CS-807投与の前後で 調べた。

Ⅲ. 臨床成績

- 1. 臨床効果
- 1) 下気道感染症

Table 1 に示すように14例のうち, 有効10例, やや 有効2例, 無効2例で, 有効率71.4%であった。

基礎疾患別にみると, 気管支拡張症 8 例では, 有効7例, やや有効 1 例で有効率87.5%気管支喘息 3 例では, 有効 3 例で有効率100%, びまん性汎細気管支炎 2 例では, 1 例やや有効, 1 例無効, 肺気腫症 1 例は無効であった (Table 2)。

Table 1 Clinical results of CS-807 treatment

					Table	1 Clini	cal results	of CS-807 treat	ment			
	Diagnosis				Γreatmer	nt	Isolate	d organ	Clinical	Side-		
No.	Case	Age	Sex	Underlying disease	Daily dose (mg×)	Duration (days)	Total dose	Species	Count	MIC: 106CFU/ml (μg/ml)	effect	effect
1	Т.Н.	57	F	pneumonia	200×2	7	2.8	S.pneumoniae P.aeruginosa	##	≤0.05 12.5	Excellent	Stomach discomfort
1	1.H.	31	ſ	bronchiectasis	200 ~ 2	′	4.0	P.aeruginosa	#		- Sheement	
2	M.W.	52	М	RTI	100×2	14	2.8	S.pneumoniae	##	≤0.05	Fair	
				bronchiectasis				P.aeruginosa	#	>100		
3	M.T.	52	F	RTI	100×2	14	2.8	B.catarrhalis	##	0.20	Good	-
				bronchiectasis				gnf-GNR	#			
4	K.N.	48	F	RTI	100×2 14	1.		H.influenzae	#		<u> </u>	
				bronchiectasis		2.8	_			Good	_	
5	K.K.	66	М	RTI	100×2	18	3.6	S.aureus	#		Good	-
				bronchiectasis				_				
6	C.S.	81	F	RTI	100×2	7	1.4	S.aureus K.pneumoniae	+		Good	_
				bronchiectasis					<u> </u>			
	N.N.	76	F	RTI	200×2	7	2.8	-			Good	-
7				bronchiectasis				_				
8	S.A.	65	М	·RTI	200×2	14	5.6	_			Good	-
				bronchiectasis								
	K.T.	78	М	RTI	200×2	7	2.8	-			Good	-
9				bronchiectasis				_				
				RTI		_		S.aureus	a few		_	_
10	C.I.	32	F	DPB	200×2	13	5.2	S.aureus	+	>100	Poor	
	Y.K.	51	М	RTI	200×2	14	5.6	-			Fair	-
11				DPB				_				
	M.O.	66	F	RTI	100×2	21	4.2	B.catarrhalis	#	₩ 0.39	Good	_
12				BA				_				
13	Y.A.	76	М	RTI	100×2	7	1.4	S.aureus	+	3.13	Good	_
				BA				_				
	T.A.	52	М	RTI	100×2			H.influenzae	#		Good	_
14				BA		7	1.4	_				
	Z.H.	74	М	RTI	200×2	14	5.6	K.pneumoniae	#	1.56	Poor	_
15				CPE				K.pneumoniae	#			

DPB: diffuse panbronchiolitis

BA: bronchial asthma

 $CPE: chronic\ pulmonary\ emphysema$

Before treatment

After treatment

Table 2 Clinical results of CS-807 treatment

Diagnosis	No. of	excellent	good	fair	poor	efficacy (%)
Pneumonia	1	1				100
bronchiectasis DPB bronchial asthma	8 2 3		7	1	1	87.5 0 100
pulmonary emphysema	1				1	0
Total	15	1	10	2	2	73.3%

検出菌別臨床効果は、複数菌感染 1 例を含む Staphylococcus aureus 4 例中 3 例有効、 1 例無効、 有効 率75%, Branhamella catarrhalis, Haemophilus influenzae の各々 2 例とも有効であった。

2) 肺感染症

肺炎の1例は著効であった。以下に、肺炎症例を呈示 する。

症例 1. T.H. 57歲 女 急性肺炎(Fig.1)基礎疾 患 気管支拡張症

49歳頃より、咳・痰持続、昭和56年より Pseudo-monas aeruginosa 気道感染が認められる。昭和60年12月初旬より、発熱、痰量増加、12月11日当院受診、WBC 9000、CRP 5 +、胸部X線で右下肺野に浸潤影を認め (Fig. 2) 急性肺炎と診断した。痰細菌学的検査で Streptococcus pneumoniae、P. aeruginosa が、検出された。同日より CS-807 200mg 1日 2 回投与開始した。投与2日後に解熱、咳、痰の改善を認め、投与7日間で治療を終了した。12月16日の胸部X線(Fig. 3)では改善を認め、痰細菌学的検査では、S. pneumoniaeの消失を認め、薬細菌学的検査では、S. pneumoniaeの消失を認め、著効と判定した。投与2日目に軽度の胃もたれ感が出現したが、継続投与可能であり、投与終了後、症状は消失した。

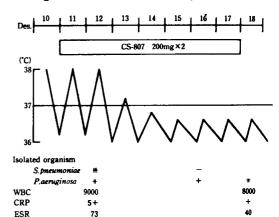
2. 細菌学的効果

細菌学的効果についてみると, Table 3 に示すように, S. aureus 4 例中, 消失 3 例, 不変 1 例で除菌率75%, S. pneumoniae, B. catarrhalis, H. influenzaeの各々2 例はすべて除菌されたが, S. pneumoniaeの1 例は, P. aeruginosa また B. catarrhalisの1 例は, ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌(以下 gnf-GNR と略す)に菌交代した。全体として13株中, 菌消失と菌交代を合わせた除菌率は10/13, 76.9%であった。

Table 3 Bacteriological results of CS-807 treatment

0	No. of	Bacteriological effect						
Organism	strain	Eradicated	Decreased	Persisted	Superinfected			
S.aureus	4	3		1				
B.catarrhalis	2	1			1			
S.pneumoniae	2	1			1			
H.influenzae	2	2						
K.pneumoniae	2	1		1				
P.aeruginosa	1			1				
Total	13	8(61.5%)	0 (0%)	3(23.1%)	2(15.4%)			

Fig. 1 Case No.1 T.H. 57F. Acute pneumonia



3. 副作用

軽度の胃もたれ感を1例 (No.1) 投与2日目に認めたが、総続投与可能であり投与終了後改善した。血液、尿、生化学検査では異常を認めなかった(Table 4)。

IV. 考

CS-807は,新しい経口用セファロスポリン剤であり, 主に,陽壁のエステラーゼにより抗菌活性を有するR-3763に加水分解され吸収される¹⁾。

今回, 気道感染を主とする呼吸器感染症15例に1回100又は200mgを1日2回経口投与したが, 著効1例, 有効10例, やや有効2例, 無効2例で有効率73.3%であり, 経口剤として1日2回の投与間隔で, 良好な成績が得られた。

検出菌別臨床効果は、4例の S. aureus 感染群では、 3例有効であり、B. catarrhalis, H. influenzae の各々

- 12
9
α
•
y,
8.8
٠,
C
_
С
-
=
- 5
77
£
- 8
-
~
- 5
9
æ
_
•••
7
=
-
a
9
-
.0
4
ē
Д
٧,
9
_
-
ъ
_
-
~
-0
~
~
=
,,,
=
_
_
ď
. 5
\vdash
4
Ð
$\overline{}$
-27
ď
\vdash

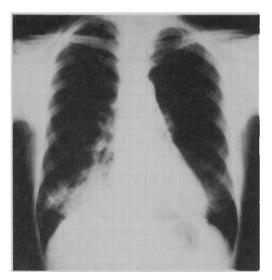


Fig. 2 Roentgenogram of case no.1 (before treatment)

2 例とも有効であった。細菌学的効果では,13株中10 株、除菌率は76.9%であった。

本剤無効例についてみると No.10は、S. aureus を検出した DPB 症例であるが、投与前の MIC は測定できていないが、投与後の S. aureus の MIC は $>100\mu g/m$ l以上であり、耐性菌のため無効であったと考えられる。No.15は、20年余りにわたる気道感染を伴った肺気腫症例で、最近 2 年来 Klebsiella pneumomiae がつづき、難治となっていた例である。K. pneumoniae のMIC は R-3763 $1.56\mu g/m$ l、 $CEX > 100\mu g/m$ l、 $CCL 50\mu g/m$ l、 $CDX 100\mu g/m$ l、 $AMPC 50\mu g/m$ l であった。

急性肺炎の起炎菌として S. pneumoniae, H. influenzae, S. aureus の占める比率は高く²⁾また、慢性閉塞性肺疾患における急性増悪の重要な起炎菌として H. influenzae, S. pneumoniae, B. catarrhalis が確認³⁾⁴⁾⁵⁾されているが、呼吸器疾患の主要起炎菌であるこれらの細菌に低い MIC を有する経口剤 CS-807は、とくに外来における、これらの呼吸器感染症に対処できる有用な薬剤と考えられ、今回の検討でも有効であった。

V. 結 論

- 1) CS-807は, 急性肺炎 1 例, 下気道感染症 14 例に 73.3% の有効率を示した。
 - 2) 細菌学的効果は、S. aureus 4 例中 3 例、H. in-

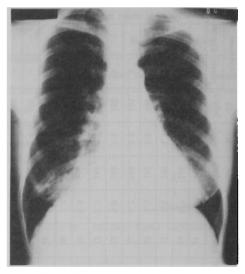


Fig. 3 Roentgenogram of case no.1 (after treatment)

fluenzae, B. catarrhalis, S. pneumoniae 各 2 例全例除 菌された。

- 3)副作用は、1例に軽度の胃もたれ感を認めた。血液、生化学検査では、異常を認めなかった。
- 4) CS-807は, 呼吸器感染症に有用な抗生物質と思われる。

文 献

- 第35回日本化学療法学会総会,新薬シンポジウムII CS-807,盛岡,1987
- 2) 蝶名林直彦,中森祥隆,鈴木幹三,立花昭生,中田 紘一郎,岡野 弘,谷本普一,松岡ひろ子:急性肺 炎204例の起炎微生物の種類と年次別推移。日胸疾 会誌20:89~95,1982
- 3) 谷本普一, 岡野 弘:呼吸器感染症における問題点-経気管吸引法を中心に-。臨床と細菌, 2: 289~294, 1975
- 4) 中森祥隆,中谷龍王,蝶名林直彦,立花昭生,中田 紘一郎,岡野 弘,谷本普一:びまん性汎細気管支 炎,気道中間領域感染症における抗生物質療法の検 討。日胸疾会誌21:693~698,1983
- 5) 松本慶蔵, 宇塚良夫, 永武 毅, 宍戸春美, 渡辺貴 和雄: 呼吸器感染症。医学のあゆみ111 (13): 944~953, 1979

CS-807 IN RESPIRATORY TRACT INFECTIONS

YOSHITAKA NAKAMORI, KUNIHIKO YOSHIMURA, TATSUO NAKATANI, NAOHIKO CHONABAYASHI, KOICHIRO NAKATA and HIROICHI TANIMOTO Division of Respiratory Diseases, and HIROKO SUGI

Clinical Laboratory, Toranomon Hospital, Tokyo

Clinical and adverse effects of CS-807, a new cephem antibiotic, were studied in 15 patients with respiratory tract infections receiving orally 100-200 mg b.i.d.

Of these, 1 patient had pneumonia, and 14 had lower respiratory tract infections (bronchiectasis 8, diffuse panbronchiolitis 2, bronchial asthma 3, and pulmonary emphysema 1, as underlying disease).

Clinical effects were: excellent in 1 case, good in 10, fair in 2 and poor in 2.

The efficacy rate was 73.3%.

As to causative organisms, results were: of four strains of S. aureus, three were eradicated and one persisted; two strains each of S. pneumoniae, B. catarrhalis and H. influenzae were all eradicated.

As to adverse effects, stomach discomfort was observed in one case.

Laboratory findings revealed no abnormality.

From these results, we conclude that CS-807 is a useful drug for the treatment of respiratory infections.